

宝塚市長記者会見「売布東の町地域における福祉の拠点づくり」

日 時 令和7年11月19日(水) 13時00分から 場 所 特別会議室

出 席 者 (市) 市長、副市長、企画経営部長、健康福祉部長、健康福祉部総括担当及び安心ネットワーク推進担当次長、健康福祉部福祉推進担当次長

出席者(記者クラブ) 朝日新聞社、神戸新聞社、読売新聞社

【質疑】

(記者) 現在、プラザコム2の跡地は空き地になっていると思いますが、新しい施設を建設する場合は、そこが候補地になるのでしょうか。

(市長) その跡地も候補の一つとして検討することになっていますが、まだ決まっておりません。

(記者) とはいって、その跡地以外の場所に新しい建物を建てる場合、公園や他の施設を壊さなければならないと思いますので、選択肢はその跡地しかないと思いますが。

(市長) 施設の規模もまだ決まっていませんので、それによっても様々な選択肢があると考えています。

(記者) 新しい施設を建設するという認識でよろしいでしょうか。

(市長) 新しい施設を建設することも含めて、この地域(売布東の町)を福祉の拠点にしていくということになります。

(記者) その言い方だと、現在ある建物を改装して福祉の拠点にするという選択肢もあると解釈できますが。

(市長) 新しい施設をつくることは、すでに決まっております。

(記者) その新しい施設は、宝塚福祉コミュニティプラザの敷地内に建設されるということですね。

(市長) はい、その通りです。

(記者) 市長は選挙戦や所信表明で、「新しく建て替える市立病院を医療・福祉・介護・保健の拠点にする」という公約や発言があったと思いますが、市立病院と今回の福祉の拠点との関係について、どのようにお考えでしょうか。

(市長) 市立病院を中心とした医療・福祉・介護・保健のネットワークに関しては、しっかりと進めていこうと思っています。具体的には、小浜地区を医療と介護、医療と保健、医療と福祉との連携を重視した拠点にしていくというビジョンが

より明確化されてきたと思います。そして今回、売布東の町が福祉の拠点になるということについては、医療を中心とする介護、保健、福祉のネットワークの中心が小浜にあり、市民福祉全体の向上を含めた福祉の拠点がこの地域にできることになり、相互補完的な拠点が2つできるので非常にいい組み合わせだと考えています。

(記者) では、2つの拠点は、どちらかがメインでもう一方がサブという位置づけになるのでしょうか。

(市長) いいえ、どちらかがサブということではありません。それぞれが役割を発揮しながら、しっかりと連携を取ることになると思っています。

(記者) つまり、同格ということでしょうか。

(市長) はい、そのように考えています。

(記者) 岡本さんご夫妻から寄付があるということですね。

(市長) はい、そうです。

(記者) 金額の規模感は具体的にどの程度なのでしょうか。

(市長) 寄付の具体的な金額については、今後岡本さんや府内と協議し、どのような施設にするか、どのような環境整備が必要かを検討する中で見えてくることになると思います。

(記者) 現在、14億円の障碍福祉基金があると思いますが、それも今回の拠点づくりに使うことを考えているのでしょうか。

(市長) いえ、まだ何も決まってない状況です。まずは、宝塚市の福祉拠点としてこの地域を整備していく中で、今ある機能がどういうもので、どういう機能が追加されるべきなのかという整理が大事だと思っています。その上で、もし障碍福祉基金を活用するということになれば、当然ながら活用検討会の皆様ともご相談する必要がありますし、その規模感がある程度見えてくる中で、岡本さんとも協議させていただければと考えています。

(記者) 資金のスキームについて、例えば一部に障碍福祉基金の積立金を使い、一部に寄付を使うことや、全額寄付で賄うことなど、いろいろな選択肢があるということでしょうか。

(市長) はい、いろいろな選択肢があると思っています。ただ、現状としましては、今回発表させていただきましたように、大変ありがたいことに、岡本さんご夫妻から寄付を含めたご協力の申し出があったというところです。

(記者) ということは、資金面での心配はあまりないということでしょうか。

(市長) いえ、心配がないとは言い切れません。

(記者) 岡本さんご夫妻から寄付の申し出があったことは、公開情報でよろしいのでしょうか。

(市長) はい、ご了承をいただいています。

(記者) 現在、市立総合福祉センターがあると思いますが、今回の拠点づくりができた場合、このセンターはどうなるのでしょうか。

(市長) こちらもまだ何も決まってない状況です。売布東の町地域で福祉の拠点づくりをしていく中で、総合福祉センターの役割もその枠組みの中で話し合われていくことになると思います。

(記者) 岡本さんと宝塚福祉コミュニティプラザの関係について、寄付金以外で例えば土地の所有権を持っているということはありますか。

(担当) そのようなことはありません。

(記者) 創設者ということですが、コミュニティプラザの設立時に土地や建物を譲り受けたということでしょうか。

(担当) 当初は銀行が土地を所有していました。そこを岡本さんが取得し、財団を設立されました。建物については、「ぷらざこむ1」と「こむの事業所」は財団が所有し、「フレミラ宝塚」は市が所有していました。昨年度末に財団が解散され、その後、土地は市に、建物は「ぷらざこむ1」が宝塚市社会福祉協議会に、「こむの事業所」が認定NPO法人こむの事業所に、それぞれ所有権移転がなされました。

(記者) つまり、コミュニティプラザの土地も3つの建物もすべて市の所有物ということで間違いないでしょうか

(担当) 土地についてはそのとおりです。建物については「ぷらざこむ1」は社会福祉協議会、「フレミラ宝塚」は市、「こむの事業所」はこむの事業所というNPO法人がそれぞれ所有しています。

(記者) 今回の覚書については、建設資金や改修資金など新しい拠点づくりにかかる費用に関する申し出を受けて交わすものという理解でよろしいでしょうか。

(市長) はい、そのとおりです。

(記者) 現状、金額や時期も全く白紙なのでしょうか。

(市長) はい、そのとおりです。

(記者) いつ着手するかということや、いつまでに作りたい、新病院の開設に合わせたいといった目標はありますか。

(市長) 今のところ目標はありませんが、ダラダラ進めるものではないと思っています。岡本さんご夫妻からは「早急に施設を作ることを目的化するのではなく、本質的にどんな機能が必要なのかをしっかりと詰めた上で役に立つ施設を」と伺っています。

(担当) 補足ですが、覚書の効力は5年間という期限を設けています。ただし、先ほどから市長が申しあげているとおり、まだ何も決まっていないため、決まり次第、覚書や契約を交わす手続きは必要だと考えています。

(記者) 今回の覚書は「協力」についてということですね。

(担当) はい。5年以内に何らかの形というか、次のステップに進めればと考えています。

(記者) 今ある3つの施設のいずれかを改装して、目的や用途を変更することも考えていいのでしょうか。

(市長) 新しい施設とどのように連携して機能を提供するのかということをこれから検討していくことになると思いますので、その中で多少の変更はあるかもしれません。

(記者) 3つの施設が残るかどうかはまだ未定ということでしょうか。

(市長) いえ、それらは残ると思います。

(記者) 例えば3つの施設が1つの大きな福祉の拠点みたいな施設になって、その中に社協やNPO法人、市が入るというような形になる可能性もあるのでしょうか。

(市長) 地域を拠点にしたいということが目的であって、一つの単一のビルにすることが目的ではありませんので、今の施設を潰すことはないと思います。

(記者) 具体的なコンセプトについて、今年度中にある程度の方向性を決めるのかといったことや、来年度の大体いつ頃までに具体的なプラン策定をするといったような現時点での目標があればお聞かせください。

(市長) 覚書の効力は5年間と定めており、来年度からどのような体制で考えていくか、どういうスキームでやるかということを含めて、一定のスピード感を持って進めていくことになるとは思いますが、現時点では決まっていません。

(記者) 新しい施設の運営について、市が直接行うのか、委託するのか、どのようなか

かわり方を検討されていますか。

(市長) 運営の方法についてもまだ決まっていませんが、少なくとも市が一定の能動的な役割を果たすだろうと考えています。

(記者) 先ほど担当から「5年間で何らかの形に」と発言がありましたが、プランが形になるのか、それとも5年間までに建物を作るという内容なのか、覚書としてはどちらのニュアンスでしょうか。

(担当) 覚書で何をするかということは全く縛っておりません。どこかで期限を切っておかないと、いつまでもご協力をいただいたままということになりかねませんので、市としても期限を設けるべきだろうとの考えです。どの段階で基本構想が出来上がっているのか、着手して設計または建設が始まっているのかということは、現段階では未定です。

(記者) 「この覚書の効力は5年間」と記載されているということですね。

(担当) はい。令和13年3月末までとしています。

(記者) 覚書の締結は本日ということですが、岡本さんご夫妻は今日市役所に来られるのでしょうか。

(担当) いえ、こちらには来られておりません。

(記者) 市から出向くのでしょうか。

(担当) すでにもうお話をさせていただいております。

(記者) 新しい市立病院の完成予定はいつごろでしょうか。

(担当) 2031年度を予定しています。

(記者) 新しい病院が開院するタイミングくらいには、今回の施設を作つておきたいと考えでしょうか。

(市長) そこも何とも申し上げられませんが、病院のほうがはるかに込み入った施設なので、より時間はかかるだろうとは思います。ただし、時期を無理に合わせる必要はないと考えています。

(副市長) まだ何もプランが決まっていないのでまずはそれを決めて、いわゆる基本計画、基本設計、詳細設計、工事となると、相当年数がかかると思います。各1年かかることになれば、少なくとも建設までいくと、5年から長くて10年ぐらいのスパンになると思います。ただし、それで本当にいけるかどうかは、やり方によっても変わってくると思います。設計から施工まで一括で進める方法も

あり、そうすれば時間を短縮できる可能性もあります。また、さまざまなステークホルダーの方もいらっしゃいますので、そういうところの協議次第でも、大きく変わっていくかと思います。

(記者) 来年度予算の中に、福祉の拠点づくりとして加わる予定はあるのでしょうか。

(副市長) 今のところ、どうなるかということは、まだ何も決まっていません。

(記者) たからづかモデルの懇話会で、議題として挙げる可能性はありますか。

(市長) どういう連携があるかという点では、影響する話ではありますが、話の中身を大きくしすぎてもというところもありますので、まだそこは検討中です。

(記者) 覚書の中で、具体的な金額の規模感が記載されているのでしょうか。

(市長) 金額に関する記載は一切ありません。

(記者) 病院のように何百億円もかかるということはないのでしょうか。

(市長) そこは、すみません。物価もいろいろ変わってくることもありますので。

以上